

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2019年2月）議事録

日 時：2019年2月15日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：AP品川 10階 会議室E

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一各副理事長、
碓井外幸常務理事、宇高 潤、小野寺昇、
勝村俊仁、川原 貴、後藤勝正、坂本静男、
下光輝一、須田和裕、須永美歌子、武政 徹、
田中喜代次、成田和穂、浜岡隆文、前田清司、
宮川俊平各理事、
井上 茂、清田 寛、小林康孝各監事、
山田孝禎第73回大会事務局長、
徳田修司第75回大会長

欠席者：大野 誠、栗原 敏、竹森 重、田畑 泉、
和気秀文各理事、定本朋子監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回の理事会議事録を理事会開催中に内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 理事選挙について（西平選挙管理委員会業務執行役）

資料に基づき、11月の理事会にて承認された選挙スケジュールについて、改めて確認がなされた。また、選挙通知の案内に理事、評議員会長、監事の選挙は同一人物をそれぞれ重複して選んでも差し支えない旨を記載したほうが良いのではないかと提案され、選挙管理委員会で審議の上、そうすることにした。本理事会後に、選挙通知の案内に「理事、評議員会長、監事のそれぞれについて、同じ候補者名を記載することが可能です。重複当選の場合には、ご本人の意向で役職が決定します。」という文言を追加することが選挙管理委員会によって決定されたと、報告された。

3. 三重大会大会長候補者について（武政総務委員長）

資料に基づき、鈴鹿回生病院・病院長の加藤 公氏が第76回（三重）大会長に推薦され、審議の結果、承認され社員総会に諮ることとした。

4. 勝木道夫元理事追悼文執筆者の選定について（鈴木理事長）

本学会規約に定める「弔行為に関する申合せ」に基づき、体力科学に掲載する追悼文の執筆者として碓井外幸常務理事が推薦され、承認された。

5. その他

1) 脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2019年版について（永富渉外委員長）

脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2019年版改訂用原稿案について、後日関連資料を基に本学会メール審議を諮る旨、報告され、承認された。本原稿案は、2月24日付で持ち回り理事会で承認された。

2) AFISM理事会・総会報告（坂本理事）

資料に基づき、2018年11月30日に香港にて開催されたAFISM理事会・総会に出席し、当理事会の前回議事録の確認やAFISM理事長、副理事長、各理事、各種委員会委員長の2018年における活動報告が行われた旨、さらに2019年度以降のアジアスポーツ医学連盟の目指すべき活動等に関して議論された旨が報告された。なお、今後の学術大会、理事会、総会の開催予定は以下の通りである。また、当会議の中で、アジアスポーツ医学連盟と共催で日本において2019年～2020年に学会（本学会または他学会も含め）開催してもらえないかとの打診があったと報告され、渉外委員会にて検討し進めることとなった。

2019年12月、AFISM学術大会及び理事会（サウジアラビア王国リヤド市）

2020年12月、AFISM理事会及び総会（中国杭州市）

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（武政委員長）

2019年2月5日に東海大学校友会館にて開催された2018年度日本医学会連合加盟学会連絡協議会に出席し、「日本医学会連合の目標と最近の活動」というテーマで、日本医学会連合の新たな取り組みや医師の働き方改革等について議論がなされた旨、報告された。

2) 編集委員会（田中委員長、後藤副委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- ①「JPFISM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況
＜投稿状況＞（2018年9月1日～2019年1月31日）
「JPFISM」誌：新規投稿20編（内海外3編）
※前年同期間：新規投稿24編（内海外2編）
1/31現在、審査中＝6編（採択6編（内海外0編）、不採択7編、原稿返却1編）
※受付不可6編（投稿規定に沿わない等で原稿返却中。国内2編、海外4編）
「体力科学」誌：新規投稿29編

（依頼教育講座含む）

※前年同期間：新規投稿28編（特集含む）

1/31現在、審査中＝13編（採択5編、不採択9編、修正投稿辞退1編、原稿返却1編）

＜発行予定＞

「JPFISM」誌○Vol. 8, No. 2（2019年3月25日発行）2/5現在、掲載論文6編。

「体力科学」誌○Vol. 68, No. 2（2019年4月1日発行）2/5現在、掲載論文6編。

②「体力科学」特集号について

【第3回特集：介護予防を考える】執筆依頼6編。体力科学Vol. 68, No. 5（2019年10月1日発行）掲載予定。

③「ACSM運動処方指針（翻訳本）」の進捗状況について

④学術刊行物「メディカルフィットネス(仮称)」の進捗状況について

3) 渉外委員会(永富委員長)

脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて、定期的に改定が行われるため、本学会において、脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートを審議する小委員会(仮称)を設立することが提案され、承認された。

FAOPS2019運営委員会

(鈴木FAOPS2019運営委員長代理)

資料に基づき、日本体力医学会FAOPS2019運営委員会が支援している企画の詳細が決定した旨、さらに、[JSPFSM-Joint Special Talk]において、小平奈緒選手の対談聞き手役として本学会の須永理事が登壇することが決定した旨、報告された。

なお、シンポジウム、特別企画の詳細は以下の通り。

企画シンポジウム

Saturday, March 30th 10:00-12:00

Kobe International Conference Center 3F Reception Hall (room3)

[Session: S38 (LOCS)]

Cutting-edge research topics on skeletal muscle plasticity in health and diseases

Chairs:

Katsumasa Goto

(Toyohashi SOZO University, Japan)

Gordon S. Lynch

(The University of Melbourne, Australia)

Speakers:

Nobuharu L Fujii

(Tokyo Metropolitan University, Japan)

Shuichi Machida (Juntendo University, Japan)

Gordon S. Lynch

(The University of Melbourne, Australia)

Katsumasa Goto

(Toyohashi SOZO University, Japan)

一般シンポジウム

Friday, March 29th 18:30-20:00

Kobe International Conference Center 5F Meeting room 501 (room6)

[Session: S31 (General Symposium)]

Genomics of Sports and Exercise

Chairs:

Noriyuki Fuku (Juntendo University, Japan)

Ola Hanson (Lunds University, Sweden)

Speakers:

Eri Miyamoto-Mikami

(Juntendo University, Japan)

Ola Hanson (Lunds University, Sweden)

Hirofumi Zempo (Tokyo Seiei College, Japan)

特別企画

Saturday, March 30th 18:20-19:10

Kobe International Conference Center 1F Main Hall (room1)

[JSPFSM-Joint Special Talk]

Towards the Summit with Sport Science

Guest Speaker:

Nao Kodaira (Aizawa Hospital)

Guest co-speaker:

Masahiro Yuki (Shinshu University)

Interviewers and Commentators:

Yukio Nishimura

(Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science)

Mikako Sunaga

(Nippon Sport Science of University)

Shuichi Koizumi (University of Yamanashi)

4) 倫理委員会(成田委員長)

今後、学会大会演題登録の際に倫理的手続きが必要になることに伴い、日本医学会連合による「医共通指針」の作成に向けて加盟学会に対して調査アンケートがなされた点、日本医学会連合の「医共通指針」が決定した場合は、本学会もこれに則り対応していく点が報告された。

2. 第73回(福井)大会の報告

(山田第73回大会事務局長)

資料に基づき、第73回(福井)大会の決算報告がなされた。

3. 第74回(茨城)大会の進捗状況

(前田第74回大会事務局長)

大会の進捗状況等について以下のように報告された。

会期: 2019年9月19日(木)~21日(土)

会場: つくば国際会議場

テーマ: 元気な人と社会を育むスポーツ医科学の挑戦

※参加者数(見込み): 約3,000人

大会の進捗状況

1) 2019年1月末時点

(前回報告以降: 2018年11月以降)

①協賛企業の募集(継続)

②大会プログラム構成の検討

③シンポジウム募集

(会員にメールと「体力科学」にて通知)

④「体力科学」に大会案内(第2報)を掲載

2) 2019年2月以降(主な事項)

①協賛企業の募集(継続)

②大会プログラム構成の検討(継続)

③演題登録・事前参加登録などの準備

4. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況

(徳田第75回大会長)

大会の進捗状況等について以下のように報告された。

会期: 2020年9月24日(木)~26日(土)

会場: 鹿児島大学(共通教育センター, 稲盛会館)

1) 大会事務局長: 萩田 太氏(本学会評議員, 鹿屋体育大学教授)に決定

2) 運営事務局: 業者と所掌事務について交渉中

3) プログラム内容: 研究発表, シンポジウム, 県民市民講座, 各種講演会, 持久走大会などを予定

公益財団法人 明治安田厚生事業団
第36回 若手研究者のための健康科学研究助成

研究テーマ

- a. 指定課題：運動とメンタルヘルス
b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究
※いずれか1件のみ応募可

助成の金額

総額1,500万円

- a. 指定課題（10件以内）：1件につき100万円
b. 一般課題（10件以内）：1件につき50万円

選考委員奨励枠

受贈課題以外から、選考委員推薦による特別枠
1件につき30万円（3件以内）

応募資格

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方（医学・歯学の学士などを含む）
- ・40歳未満かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・第35回（前年度）受贈者は除外

応募締切

2019年8月22日（木）必着

主 催 公益財団法人 明治安田厚生事業団
後 援 日本体力医学会
明治安田生命保険相互会社

選考委員

委員長 福永哲夫（鹿屋体育大学名誉教授）
委 員 荒尾 孝（公益財団法人明治安田厚生事業団
体力医学研究所副所長）

委 員 井澤鉄也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

委 員 小熊祐子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授）

委 員 定本朋子（日本女子体育大学名誉教授）

委 員 新開省二（東京都健康長寿医療センター研究所副所長）

（敬称略・五十音順）

●応募方法：

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください

作成した「申請者情報ファイル（エクセル形式）」と「研究計画ファイル（ワード形式）」を事務局宛にメールでお送りください

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません

●申請書ダウンロード：

URL: <https://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/>

●申請書送付：

E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

●お問合せ：

公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所
研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

編 集 後 記

「体力科学」第68巻4号をお届け致します。本号は、総説1編、原著論文3編、教育講座2編、JPFSM, Vol. 8, No. 4 (2019) の抄録などから構成されています。エネルギー代謝、健康づくり、ストレッチングの視点からそれぞれ興味深い評価法で研究が実施されている内容となります。論文を投稿いただきました先生方に感謝申し上げます。今後も編集委員長、副編集委員長をはじめ、事務局担当者と各担当編集委員が強固に連携し、学会員の先生方からの多くの投稿をお寄せいただけるよう準備をしております。なお、本号の教育講座に「JPFSM」編集委員長より、「JPFSMおよび体力科学の編集方針と論文執筆のあり方」が掲載されております。是非、ご一読いただきたくお願い致します。

私こと学生時代の英国留学の経験から、英国での科学的論文の執筆について、大学で指導をいただいたことを少し共有させていただきます。英国人からみた良質の文章構成は、短文で内容がシンプルであることのようにです。当たり前のようなことかと思いますが、意外と忘れていた「執筆の作法」かもしれません。おそらく、日本語で

論文を執筆の際、同様のことが言えるのではないのでしょうか。また、先行研究を隅無く探し、整理をして、原稿に盛り込むことを常に心がけることを基本としているようです。昨今、学術雑誌の投稿先の選択肢が多く、公表されている情報も溢れる中、きちんと整理ができないまま自身の論文のオリジナリティーだけを前面に出してしまう傾向が見受けられます。つまり、常に文章構成には「バランス」が大切とも言い換えることができるかと思えます。

論文執筆の作法について、なかなか一つの研究室や部署からでは、得られない情報が多くあります。多くの先生方は、国内外の交流や学術誌の投稿の経験をとおり、研鑽を積み重ねられているかと思えます。特に若手の学会員の先生方におかれましては、ご自身のご研究の成果を丁寧にまとめていただき、どしどしご投稿をいただきたくお願い申し上げます。

宮下 政司

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.68, No.4

体 力 科 学 第 68 巻 第 4 号

令和元年7月25日 印刷
令和元年8月1日 発行

編集兼発行者
発行所

田中喜代次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社